

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172700716		
法人名	狭山不動産株式会社		
事業所名	グループホーム見晴らしの家		
所在地	埼玉県狭山市入間川1730-1		
自己評価作成日	平成25年2月1日	評価結果市町村受理日	平成25年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成25年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

複数科の受診や検査を受ける利用者が増えて薬の変更など内容が複雑になっていることや、家族が通院付添に大きな負担感を抱えていることに対応するため、家族・医療機関との丁寧な情報交換を図るため、リーダー職員がチームを組むような職員配置を実施している。
 重度化した利用者に対しては、摂取しやすい食事形態や水分補給を工夫している。食事介助・口腔ケアまで丁寧なケアと職員全員の情報共有と共通認識が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者の高齢化、重度化が進む中で、職員が協力し合い支援し、地域や市担当者にも支えられ、9名の利用者が家庭的で楽しい生活を送られている。また、家族交流会など、家族との連携も図られ、意見・提案そして耳の痛い話、運営に関する声も真摯に受け止められ、サービスの向上に反映されている。
 ・ご家族アンケートでも、「職員の皆さまには大変良くしていただいています。介護のレベルが様々な方々にあった対応をしてくださり、助かっています」、「介護計画もわかりやすく、定期的に続行してくださっている」、「衛生面、安全面他いろいろ面倒見ていただきまして、感謝しております」などのコメントにあるように、高い評価が得られている。
 ・目標達成計画の達成状況については、災害時の地域との協力体制作りに取り組み、住民との合同消火訓練の実施や、地元消防団との連携が進められ、目標が達成されている。また、食事支援については、食事担当職員を決め、献立表の作成や評価の実施を検討するなどの取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム見晴らしの家	玄関と食堂に理念を掲示して、職員は理念を意識した支援の実践をこころがけている。	理念をもとに、利用者との関わりは自然体で行われ、利用者が安心して生活を送られるよう支援がなされている。職員にも理念の共有が図られ、利用者それぞれに合わせたケアのあるケアの実践に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の盆踊りには毎年招待を受け全員で参加している。日常的に買物に行っているお茶店では利用者の名前をよびかけ、親しく交流してくださっている。	近所のお茶屋さんとの日常的な交流や、散歩に出かけて、近所の住民から、声をかけていただいたり、花や野菜を分けてもらうなどのつきあいがなされている。中学校の運動会やバザーの見学など、地域行事への参加も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の体験学習やボランティアを受け入れ、身近な交流を体験してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催して状況報告を行っている。家族代表や知見者の意見は運営の参考にしてしている。	議題に合わせて、外部評価の結果や、災害対策など、事業所側からも様々な報告がなされ、参加者の家族、知見者、市担当者からの意見・アドバイスもあり、事業所の運営にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市職員や地域包括職員が参加して事業所の実情を伝え、相談や報告の中で協力関係を築いている。	運営推進会議にも、市担当者が出席され、参加者との質疑応答が行われ、様々なサポートをいただき、常に相談し、良好な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止に関しては研修や勉強会で学習して職員の意識向上に努めている。玄関は防犯上施錠しているが、利用者の希望に応じていつでも職員同行の上で外に出ている。	職員が外部研修に参加し、その報告をもとに事業所内での勉強会を行い、身体拘束についての理解に取り組まれている。現在、プロン、ベット柵使用の利用者もおられるが、拘束による弊害も理解され、拘束に頼らないケアを常に模索されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・園内勉強会を通して学び、職員の意識を高め、職員間では疑問を投げかけあう環境が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中には成年後見制度を利用している方もおられ、職員は外部研修・園内勉強会を通して学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は十分行い、理解納得をいただいたうえで契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表・利用者代表が必ず参加して下さっており、交流会・報告会や要望箱の設置により家族の声を聴く機会を設けている。結果はミーティング等で報告して運営に反映させている。	利用者とは日々の会話の中で、意見や要望を聴き取り、家族からは、面会時はもちろんであるが、家族交流会の開催時などにも、運営についての情報交換を行い、出された意見や要望は会議にもかけられ、サービス向上に役立てられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングと個別面談により職員の意見や提案を聞く機会を設けている。結果は運営母体に詳細に報告して早い時期に反映する事が出来ている。	職員からの地域の情報をもとに、買い物に出かけたり、イベント企画の提案が行われるなど、意見・提案が出やすい環境が整えられている。「これまでの経験を話し、取り入れられた」などの職員の声もあり、サービス向上にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営母体からは毎日担当職員が事業所を訪れており、管理者を通して個々の職員の勤務状況等の報告を受け、代表者へも報告の上で職場環境・条件の整備改善に積極的に動いてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や研修報告・勉強会の開催により、職員ひとりひとりが学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の協議会に参加して情報交換の機会を得ている。外部研修の参加によってサービス向上に向けた交流の機会も得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の話し合いで困っている事や希望を聞く機会を十分持っている。入居当初は特にご本人が安心感が得られる状況を探ることを最優先に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の願いや具体的な要望に関する話し合いの時間を十分とっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が希望している支援について十分に聴き、当方で出来る支援や可能な支援についてもお話す時間を十分とっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできること・得意なことを把握して日常の家事作業を担当していただいている。ご本人一人ではできないことは少ないので、職員と一緒に作業をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期の通院は家族が付き添って行く方もおられる。また、入居後も変わらずに教会や旅行など家族とお出かになる方もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は定めていないので、仕事帰りのお友達が日常的に訪問してくれたり、行きつけの美容院に行かれる支援をしている。	実家の氏神様の催しや、家族と教会に出かけるなど、利用者の昔からの馴染みの関係継続への支援が行われている。また、友人・知人が訪ねて来られることも多く、居室でゆっくりお話しいただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握したうえで外出時の組み合わせをしたり、食堂の座席を決めている。会話が困難な利用者の側に職員が座り、利用者間のコミュニケーションを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援とは言えないが、地元ということもあり、契約終了後もご家族と会う機会は多く、関係性はとぎれてはいない。入院先・入所先に行った際はご本人に面会してくることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の発した言葉を大切にアセスメントしている。意思表示の難しい方については、その時々表情や家族・職員の周辺状況の報告を頼りに「ご本人なら？」との立場で検討している。	普段話しをしない利用者が、何気なく発した言葉などにも、しっかり傾聴し、「利用者の言葉」として記録され、他の職員にも共有することで、思いや意向に応えられている。職員がいろいろなお膳立てをすることで、話しやすい環境が作られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご家族にアセスメントシートの記入をお願いして、ご本人がわからなくなった生活史の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスでは健康状態・能力・喜ぶ事などについての情報交換をし、毎日の申し送りで変化する状況		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と一緒に話し合う機会が難しいことが多いため、電話によりその都度相談した情報をもとにカンファレンスで検討して、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画の第2表を重要視し、難しい言葉ではなく、簡潔に記載し、これをもとに現場でのケアやケース記録の記載などが行われている。計画内容の職員への周知も図られ、計画と現場とが一致した支援に取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に一目で見えるように備えて、ケアの実践状況や気づきなどを記入するよう努めている。介護計画の確認や見直しにも、見やすく気づきを促がすにも効果があると感じている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の同行や送迎、美容院の付添いなど、ご家族の要望に沿って事業所として人員を確保して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお茶店での買物は、目的地としての役割やおやつ購入という役割分担にも目標地点となっており、中学校の行事の見物は季節の行事として節目になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所には月に2回訪問診療があるが、ご本人・家族が医療機関を選んで、それぞれである。	日常的には協力医との連携が図られ、利用者の健康についての相談も行われている。かかりつけ医への受診時、家族が同行される場合は、利用者の状況が医師に伝わり、指示も確実に得られるよう、「受診記録」を活用されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師の配置はないが、受診時に家族や担当医に正しい情報が伝えられるよう、受診記録を活用して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は円滑な継続治療が受けられるよう情報提供し、退院時には職員がカンファレンス等に参加して生活上の指導などを受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約までの間に、事業所が対応できる範囲を説明して同意を得ている。	重度化や終末期への対応は、利用者・家族を不安にさせないことを常に考え、事業所としての方針をもとに、話し合いが行われている。ホーム長が中心になり、利用者・家族の納得が得られるよう取り組み、また職員へのフォローも図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命講習を受講している。急変時の対応に関する勉強会を定期的に行って確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下年2回の消防避難訓練を実施している。消火器訓練には近隣の方々にも参加の呼びかけをして、協力体制の構築に努めている。	地域住民も参加された合同での消火訓練が行われている。夜間災害時想定を中心に訓練が実施され、東日本大震災後は、特に電気、水道などのインフラ対策として、水や食料の備蓄にも取り組まれている。	地域住民との合同訓練は実施されているが、さらに、災害発生時に、「何を協力いただくのかなどの役割分担」を決め、運営推進会議等を通して、参加者を含め、地元の消防団との関わりを作ることなどに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時の声掛けなどは特に注意をして個別に工夫している。ミーティングの際は、具体的な対応の仕方を職員間で情報交換している。	周りに聞かれると嫌なこと、とりわけトイレ誘導などの言葉かけへの工夫も図られ、尊厳とプライドにも配慮がなされている。「自己選択」を重視し、言葉使いなどでは、職員同士が注意し合うなど、一人ひとりを尊重した対応に取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずはご本人に希望を伺っている意思の表出が難しい方方には、二者選択で伺うなどしてご本人の希望がかなうよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	遠足などの特別な行事がない限り、職員に都合も決まりもないので、大まかな食事の時間が設定されているほかは、一人一人の生活ペースに沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院への付添いや外出時の整容、メイクの手伝いなどを日常的にしている。ご自分からおしゃれすることはないので、「今日は…だから」といつもとは違うことを強調した声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に関する要望が少なくなっているので、行事食を多く計画して、話題のきっかけを作っている。	利用者と職員とで、食材の買い物に出かけたり、糖尿食を取り入れるなど、利用者の好みや健康面にも配慮された食事支援が行われている。毎週金曜日はお弁当の日として、目先を変え、食事を楽しんでいただいている。	食事については、家族にも関心の高いことであり、事業所の食事支援への取り組み姿勢をアピールするため、家族に献立表を送付したり、試食会を行うなどして、さらに信頼を深められる取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に関しては、毎日の摂取量を記録して水分不足が続くことがないように管理している。甘いのみものを種類多く用意したり、摂取しやすいゼリー飲料で補水したり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた用品を用いたり、姿勢保持の工夫をして口腔ケアを徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状況を把握しており、声掛け・介助により失敗防止とトイレでの排泄を支援している。	利用者の意志、習慣にも配慮しながら、トイレでの排泄を基本に、自立支援が行われている。夜間もベッド上でのオムツ替えをなくすため、就寝前には必ずトイレに誘うなど、きめ細かいケアにも取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や掃除などで運動不足を予防したり、食事内容を検討して、飲み物やおやつにくふうをして、下剤に頼らない排便に努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある場合は声掛けのタイミングや対応職員を替えるなどの工夫をしている。入浴剤を替えたり、歌を唄ったりと雰囲気作りも大切にしている。	利用者の希望にも合わせながら、二人対応での介助が行われている。ゆっくり入浴ができるよう努められ、昔話や歌を歌うなどの触れ合いもあり、入浴を安心して楽しんでいただけるよう配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの希望や状況に合わせて自由に休息して頂いている。意思表示の難しい方には体調や様子観察によって休息を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果・用法については、ミーティング・申し送り・連絡ノートによって即刻情報を伝えるように工夫している。症状の変化には職員間で情報交換してフロア長・管理者に連絡し、医師・家族に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る出来ないではなく、楽しめるか・達成感を実感できるかを検討して作業を担当して頂いている。気分転換には職員と個別にコーヒーを飲み外に出るなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	短時間でも戸外の空気に触れるよう散歩に行っている。送迎ボランティアの協力を得て、遠出やドライブに出る機会を作っている。また、福祉車両を購入して車椅子の方が気軽に外出できるようにしている。	短時間でも外に出ていただき、「寒い、暑い」という季節を感じてもらえるよう取り組まれている。靴を履いて、外に出かけることに職員もこだわり。散歩回数をチェックするなど、日常的な外出支援に努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物や美容院では、自身で支払う機会にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で電話をかけたり、携帯電話を使ったりできるよう個々の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には飾り物や生花で季節感を感じていただけるよう工夫している。排泄後の臭いにも関係するため、換気に注意し、空調管理を行っている。	共用空間内の臭いに注意し、換気にも気を配るなど、衛生面や環境面への配慮がなされている。利用者は食事作りの様子を感じることができるなど、家庭的で落ち着いた雰囲気での共用空間作りに取り組まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要に応じて椅子を用意したり、ソファやテレビを移動して、入居者同士が機能的に過ごせ、職員の見守りに盲点がないような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望により家具の配置を替えたり、ご本人の移動の安全のための家具移動をして、心地よい安全な居室環境を作っている。	利用者の気持ちや習慣に沿った居室への支援がなされ、仏壇、生花、自分の描いた絵画など、利用者の好みのものが持ち込まれている。利用者の居心地の良さや移動の安全性に配慮した居室作りへの支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の行動を予測して段差や障害物を予め除き、自由に活動できるような空間作りを目指している。トイレでは立位保持の為に目印をつけて自立支援をしている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム見晴らしの家

作成日: 平成 25年 6月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	食事は家族にとって高い関心事であろうと思われるので、事業所としての食事への取り組みを家族と情報共有して、一層の家族との信頼を深める必要がある。	入居者の食事内容を家族にお知らせする。	①献立記録をそのまま縮小コピーして報告する。 ②小口金報告書とともに翌月15日に郵送する。 ③家族面会の際に献立や食事に関する意見・感想を伺う。	1ヶ月
2	35	災害発生時の対策のひとつとして、地域連携・協力体制を深めているところではあるが、もっと具体的に活動し、職員全員に周知する。	自治会消防団とともにホームの消防避難訓練を計画する。	①運営推進会議に消防団員に出席して頂く。 ②秋の消防訓練に参加頂くよう要請する。 ③消防団と共に避難訓練をする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。